

平成 24 年度第 6 回定例会、平成 25 年度第 1 回研究 WG 活動報告等

はじめに

倫理研究会では、2013 年 2 月 12 日(火)に平成 24 年度第 6 回定例会(出席会員 22 名)をドーコン新札幌ビル会議室にて、2013 年 4 月 22 日(月)に平成 25 年度第 1 回研究 WG を中大実業会議室(出席者 23 名)において開催しましたので報告します。

■第 6 回定例会

1) 新規会員について

今回の定例会より山本肇氏が新たに会員となり、自己紹介が行われました。これで会員数は 27 名になりました。

2) 「第 1 期倫理研究会活動報告書」の取りまとめについて

佐々木幹事より第 1 期活動報告書のとりまとめに関する進捗状況報告を行いました。

3) 「第 4 回技術者倫理フォーラム」に向けて

第 4 回技術者倫理フォーラムを平成 25 年 5 月 22 日(水)ガーデンパレスにて午後 2 時半～5 時まで実施する。基調講演には中部本部 ET の会代表幹事の水野朝夫技術士に依頼することとした。

4) 「次年度活動方針と平成 25 年度幹事」について

平成 25 年度から倫理研究会から倫理委員会と名称が変わることになる。これに伴い倫理委員運営方針について討議を行った。活動方針としては、現在の活動している状態を継続しつつ、活動しやすい組織形態を目指していくこととした。また、新規参加希望者がいれば積極的に受け入れていくことを会員一同で再確認した。

平成 25 年度幹事については、6 月までは現行の体制(花田代表)のままで運営し、7 月中旬以降から新体制で運営を行うこととした。

5) 『土木技術者の倫理』第 10 章(技術者と環境)について(北越委員、橋本幹事)

第 4 回技術者倫理フォーラムでの発表に向けて、北越委員と橋本幹事から、前回定例会のアンケート結果に対する、各委員の意見を集約した内容での説明を行った。



第 6 回定例会 発表する北越技術士

【アンケート内容に対する意見(抜粋)】

- ・データ分析のようなことが必要ではないか。
- ・アンケートの意見をただ並べているニュアンスがあるので、倫理研究会としての最終的(総合的)な「考察」がほしい。
- ・多くの人が“中立”を取りたがる心理なのではないか。
- ・フォーラムでは、参加者へ代表的な質問を 2、3 個アンケートし、研究会の結果と比較してみても良いのではないか。
- ・最初の設問の 4 つの解決法については、他人の目を気にしすぎているような設問であり違和感がある。

フォーラムでの発表に向けて、わかりやすい内容になるように、過去の体験・経験を踏まえた活発な議論がなされました。

■平成 25 年度 第 1 回研究 WG

1) 新規会員・退会会員について

今回の研究 WG に高橋拓氏が参加し、WG の終了後に会員となり、会員数は 28 名となりました。

2) 平成 25 年度の倫理委員会の進め方について

今年度の年間活動予定表について確認を行い、年 6 回偶数月に研究 WG を開催することとした。また、第 4 回技術者倫理フォーラムの役割分担について提案・報告されました。また、第 40 回技術士全国大会(札幌)における倫理委員会に関係する内容について、花田委員長より説明がありました。

3) 第 4 回技術者倫理フォーラム模擬報告会

中埜渡技術士、武田技術士から事例研究(1)、北越技術士と橋本幹事から事例研究(2)について第 4 回技術者倫理フォーラムで講演する事例研究について模擬報告を行いました。

- ・事例研究(1)～技術業におけるリスクと責任～
- ・事例研究(2)～環境問題における技術者モラル～



第 1 回研究 WG 発表する中埜渡・武田技術士

【事例研究(1)に対する各委員からの意見(抜粋)】

- ・最初に「倫理委員会の活動について」を入れたのが非常によく感じた。わかりやすくなった。
- ・幹事会で聞いた時よりよかった。
- ・事例で何を話すのかを最初の方でももう少し具体的に記述した方がよいのでは。
- ・文字が大きくなりませんか。
- ・PPT の変更はせずに、関係なさそうな箇所の説明を端折った方がよいのではないかと。
- ・リスクの概念がわかりにくくないか？

【事例研究(2)に対する各委員からの意見(抜粋)】

- ・会場のアンケート結果は倫理委員会でのアンケー

ト結果と比較を行うのか？

- ・円グラフには倫理委員会会員のアンケート結果であることを明記すべきではないか。
- ・自然中心の倫理、人間中心の倫理という表現がどうもしっくりこない。
- ・「環境の悪化」という表現が悪いのではないかと。少し解説を追記するなどした方がよいのではないかと。
- ・自然環境を改変するのは、土木の立場としては、人間の生活環境を改善したり、功利を追及したためであり、自然環境の改変を悪に結び付けるのは違和感がある。

以上、委員の意見を踏まえ、第 4 回技術者倫理フォーラム当日までに事例研究の進め方について再整理し、フォーラムに臨むことを確認しました。



第 1 回研究 WG 発表する橋本・北越技術士

■第 1 期活動報告書

当委員会は平成 20 年 6 月に倫理問題研究会・準備会として 13 名の参加により始まり、平成 21 年 5 月に倫理研究会として活動を開始いたしました。この 5 年間の全活動を取りまとめた「第 1 期倫理研究会活動報告書」を作成・刊行いたしました。

平成 25 年度からの第 2 期からは 1 段ステップアップした取り組みが行われるように会員一丸となって活動していきたいと考えております。

